

宇部市健康づくり推進審議会（令和5年度第2回）開催にかかる報告書

1 日時

令和5年（2023年）11月16日（木）19時30分～20時45分

2 場所

保健センター 1階 健診ホール

3 出席者

(1) 審議会委員 12人

オブザーバー 2人（教育機関）

(2) 事務局 12人

健康福祉部

健康増進課

佐々木部長、加生次長、島田次長

伊藤課長、奈須副課長、柴崎係長、福永係長、

嶋渡係長、高橋係長、山本、武田、藤本

4 配布資料

(1) 第二次宇部市自殺対策計画の策定について

(2) 第四次宇部市健康づくり計画に係る意見交換

5 概要（会議録）

(1) 第二次宇部市自殺対策計画の策定について

（事務局）【説明】

（委員）ワーキンググループ（以下「WG」と表記）や審議会の意見を踏まえた案になっている。今後、力を入れていく子ども・若者・女性の部分に対して、いかに具体的な取組を実行し質の良いものにしていくかが大事と思う。

（委員）プランの名称が「こころかようまち」から「命を大切にすまち」に変わった。具体的になり適切な名称変更と感じている。

（オブザーバー）小学生は家庭の影響を受けやすいということを配慮した施策が盛り込まれているので良いと思う。

（オブザーバー）スクールカウンセラーと学校で連携し、必ず年に1度はSOSの出し方に関する教育を盛り込むようにしている。自己表現等を含め、子供たちが自分らしく生きていくためには、学校の教育だけでは難しく、関係機関と関わりながら進めていく必要があると感じている。そのほか、週1回のアンケートなど色々な面から子供たちのことを把握して、独りで抱えこまないように支援し

ていきたいと考えている。

(委員) 素案 4 ページの一番下に、数値目標で自殺死亡率 18.5 とある。素案の概要 1 ページ目には 19.3 と記載されており、数値が違うがどうか。

(事務局) 大綱の 18.5 は国の目標、19.3 は宇部市の目標である。

(委員) 素案 20 ページの一番下にある「障害児・者」という表現は正しいか。

(事務局) 障害児、障害者を省略した書き方にしている。

(委員) 居場所づくりの一つとして、社会教育課で放課後こども教室を実施されているが、市から支援をやめたいという話があったと聞いた。各地域独自でやってほしいとのことだが、その後どうなったか分からない。

(事務局) 議会でも質問があった内容で、適切な方法で進めていく必要があると御意見いただいた。担当課には確認のうえ、しっかりと取組を進められるようにバックアップしていきたいと思う。

(委員) 地元の小学校ではいじめ対策をしっかりやっている。全体的にこどもに対する対策は良いが、問題は 20 歳代だと感じる。

(委員) 高齢者に関しては独居老人が多く、声かけをするようにお互い取り組んでいる。地域での交流は大事だと思い、老人クラブやサロンに来てもらうよう声かけを行っているが、足を運んでももらえないこともあり、悩ましく感じている。

(委員) 素案 4 ページの基本方針で、「⑥自殺者等の名誉及び生活の平穩に配慮する」とは具体的にはどのような内容か。また、コロナで閉じこもりが増えていたが、イベント等も開催されるようになり、少しずつコロナ前に戻っていると感じている。

(事務局) 「⑥自殺者等の名誉及び生活の平穩に配慮する」の項目は新しく大綱に追加された。国の大綱では、『国、地方公共団体、民間団体等の自殺対策に関わる者は、自殺者及び自殺未遂者並びにそれらの者の親族等の名誉及び生活の平穩に十分配慮し、不当に侵害することのないよう、このことを認識して自殺対策に取り組む必要がある』と記されている。自殺者の家族に対する周囲の関わり方が課題となっているため、国が大綱に追加したと認識している。

(委員) 重点施策について、コンパクトにまとめられていて良いと思う。素案 4 ページの新しい大綱の概要には、13 の重点施策がある。いずれも重要な項目と思うが、それを市計画では 6 項目に絞られている。どのような考え方に基づくものか。

- (事務局) 計画の策定について協議する様々な場で、「宇部市の課題を解決するための計画にするべき」と御意見をいただき、そこを強くするために意識して重点を絞った。評価指標も重点施策をしっかりと評価できるものに設定している。
- (委員) 素案 4 ページの重点施策「⑧自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ」の「自殺企図」とは、自殺未遂と既遂の両方を指すものと理解している。また、自殺未遂者はその後も自殺の危険性が非常に高いと思う。地域ケアを通しての再度の自殺企図を防ぐ、そして社会復帰に結び付けていくことが必要である。なお、自殺未遂者及び家族の心のケア、定期的な精神状態の確認など行政支援も重要になってくると思う。そういった観点からも、自殺未遂者への対応は重点施策として必要であると考えます。
- (事務局) 国データからも、自殺者のうち自殺未遂の経験がある人は 20%と出ており、ハイリスクであると認識している。関係機関で連携した取組は大事だが、未遂者の把握は十分ではないので、しっかりネットワークが機能するように取り組んでいきたい。
- (委員) 12 ページの自殺死亡原因について、自殺の根本的な原因を特定することは困難とされているが、健康問題が最も多くなっている。その健康問題について、厚生労働省の研究班が出した新聞記事を紹介させていただく。記事によると、がん患者の自殺リスクは一般と比べて約 1.8~2 倍。がん患者が 2 年以内に自殺するリスクは一般と比べて 1.8 倍高いことが調査でわかった。診断後の期間が短いほどリスクが高く、がん患者の自殺対策は診断早期が重要とされている。進行がん患者を対象とした対策についても、今後検討する必要があると感じる。
- (事務局) 宇部市は、「がん患者に優しいまちづくり」を目指しており、市内のがん相談窓口のスタッフが集まって協議をする場も設けている。ただ、医療現場との情報共有はできていない状況である。
委員の皆様、医療現場で感じていることがあれば教えてください。
- (委員) 身体的な病気の苦痛や絶望から自殺につながっているようなケースは間違いなくある。治療を進める中でも、本人の状態をしっかりと把握し、リスクが高まっていれば精神科や保健分野へ紹介するなど、主治医を中心とした支援体制を機能させることが大事。事例検討で関係機関がしっかりと話し合い、連携していくことも重要である。
- (委員) 25 ページ以降の具体的な取組は、複数の部署、事業者、学生など様々な立場の方が関わられているが、そこをどう動かしていくかが重要だと思う。施策は、届けたい人に届いていないことが一番の課題。関係機関と連携をとり、進捗を確認しながらやっていければ良いと思った。また、28 ページの若者ゲートキーパー活動事業も健康増進課が主体で実施とあるが、学生や起業家の

力を借りれば、今まで情報が行き届かなかった層にも啓発できるのではないか。もっと民間の力を借りて取組を広めていくと、より良い計画になると思う。

- (事務局) いかに多くの人達を巻き込むことができるか考えていきたい。巻き込んだ人達への啓発にもなるため、ネットワークが一つのキーワードと感じる。進捗管理はWGを組織し、関係機関の意見を聞きながら進めていく。
- (委員) 重点施策に「若者のための自殺対策の推進」が挙げられているが、素案15ページでは、学生が経済的に家庭を支えている状況があると意見が出ている。もしも、20歳代の自殺者の中で経済的な理由により自殺に追い込まれている方がいるのなら、とても可哀想なこと。支援窓口を設けるなど、お金でケアできる部分があれば、アプローチすると良いと思う。市で何か施策を行ってほしい。
- (事務局) 生活困窮者への施策は、住居確保給付金や食糧支援などがある。また、生活相談サポートセンターうべで相談すると、お金の貸し借りだけでなく、家庭の経済状況を診断してプランを立て、社会的な自立のための支援を行っている。なお、重層的支援体制整備事業では、庁内関係課が月1回集まり、生活困窮者を含め支援が必要な方への対応について協議している。そのほか、公共料金を滞納している家庭に対して、支援の手を差し伸べるためのネットワーク会議も随時開催している。
- (委員) そういった情報を支援が必要な方へ届けることが大事。
- (委員) 素案21ページのコロナに関する課題に対して、具体的な取組がないようだがどうか。
- (事務局) コロナに特化した取組にはしていない。コロナの影響で孤立、居場所を失っている人がいるという視点をもって、居場所づくりや地域での様々な取組を推進していく。
- (委員) コロナは5類に移行したが、休日診療所の患者数は去年の倍になっている。コロナに対する考え方や価値観などは人によって異なることから、意識の啓蒙も考えていく必要があるのではないか。
- (委員) 何かあったときに相談する窓口は、どこに連絡したらいいのか迷う。また、普段は行政と関わりのない人にとって、市に連絡すること自体、ハードルが高いと感じるのでは。市の施策をもっと活用してほしい、どなたでも安心してご相談ください、みなさんをいつでも受け止めますよ、といったメッセージの発信があるとよい。
- (事務局) 相談窓口の周知は、冊子を作成及び二次元コードから読み取ってもらうことを考えていたが、御意見のとおり、ハードルがあると窓口がどれだけあっても活用につながらない。そういった視点で、今後のWGでも検討していきたい。

(委員) 医療・介護・福祉を中心に相談を受けており、“みんなが相談しやすい場所”を目標に活動している。また、相談を受ける中で感じていることとして、死生観はとても大事である。

(2) 第四次宇部市健康づくり計画に係る意見交換

(事務局) 【説明】

(委員) 【意見なし】

(3) その他

(委員) 厚生労働省の「健康寿命をのばそう！アワード」に、宇部市も挑戦してはどうか提案したい。参加することで、他の自治体の模範となる宇部市ができるのでは。また、市全体の健康づくりに対する機運が高まり、医療費の削減などにもつながるのではないか。

なお、県内では防府市が一度入賞しており、市民の盛り上がりには抜群の効果があったと聞いている。上宇部地区も数年前に挑戦したことがあり、良い結果とはならなかったが、取り組む過程も健康づくりに資するものであった。

(事務局) 市全体で健康になる一つのきっかけとして、何が市の特徴に挙げられるか考えながら、アワードへの参加も検討していく。

(閉会)